

想創奏

第43号

平成30年3月20日

発行人 荒川輝男

編集人 林 直輝

〒536-0013

大阪市城東区鳴野東 3-18-5

社会福祉法人そうそうの杜

Tel 06-6965-7171

Fax 06-6167-2622

H P <http://www.sou-sou.com/>



—— Kawasemi からのお知らせ ——

Kawasemi 御膳 1日限定5食 価格 ¥1,500-

揚げ物、焼き物、蒸し物、酢の物など計8品を小鉢に盛り合わせており、一つの御膳で色々な味を堪能できます。ご飯、みそ汁、なごみ漬け、発酵卵はだし巻き卵での提供です。お客様からもご好評をいただいておりますので是非ご賞味下さい。

社会福祉法人 そうそうの杜

支援者としての傲慢さ

理事長 荒川 輝男

先日、利用者（68 歳）が肺炎で入院され、2 週間くらいで退院された。

まだ、全面復帰には体力が回復していないが、ご本人は早くに復帰したいとのこと。

ご本人は、就労継続支援 B 型の利用で様々な機関を経由して、ここ 15 年くらいは当法人の事業所に通っておられる。退院して、お姉さんが様子を報告に来られ、開口一番「働けないからつむぎ館へは通えなくなるじゃないかと弟が心配していました」

「いえいえ、今日来ていただいたのは、弟さんが体力的にも大変になってきているので、就労継続支援 B 型事業から、少しのんびりと過ごして欲しいので生活介護へ変更し、ご本人の状況に応じて休憩したり、作業したりすることを提案したいんですが」

これでようやくお姉さんは安心されたとのことでした。

この経過で、つくづく考えさせられた。

法人では、働き続けることに対する根拠を示せないまま（理由付けができないまま）知的障害があるというだけで働き続けることを強いてしまっている。それは 60 歳を越しても、65 歳を越しても第 2 の人生を謳歌することは考えずに一生働き続けなさいという支援を行ってきたからこそ、利用者は働き続けると言わなければ排除されてしまうという不安を抱くのだ。障害があるという理由だけで一般の人に保証されている定年後の生き方（余暇の活用や第 2 の人生ステージ）さえも奪ってしまっていることに対して、支援者としての傲慢さだけを押し付けてしまってきたことに気づかされた。

我々は、このように表面的には障害者虐待には当たらないかもしれないけれど、知らず知らずのうちに障害のある方たちの権利を奪い差別してしまっている現実がある

一方、65 歳以上の方が介護保険や生活介護に移行すると新たな問題が生じてくる。今般の制度改正の中で共生型の仕組み（障害者施策と介護保険の相互利用型）が出てきたものの、障害者施策から介護保険の移行に関しては解決しなければならない問題も多い。

このような、反省に立って平成 30 年度から未知の世界であった介護保険事業（地域密着型通所介護）を 5 月 1 日からスタートさせる予定である・

法人としては、共生型の枠組みを考えて利用者が、希望すればライフサイクルに応じて安心して利用できる受け皿を作っていかなければならない大きな転換の年として 30 年度を位置付けていかなければならない。

41 号に掲載した宇野さんの原稿の後編を掲載します。

41 号内の案内では「42 号に掲載します」と記載しましたが、
都合により 43 号での掲載になりました。

楽しみにされていた方、申し訳ありませんでした。



「相模原事件」を考える後編

v) まとめ

以上のことから概観すると、津久井やまゆり園はかなり早い時期に建てられた代表的な地方コロニーである。当初は「山奥」の広大な地に作られたが、地元住民の採用を積極的に行い、地域との交流を意識的に深めていったようだ（犯人も小さい頃からやまゆり園と交流があったとの記事もみられた）。

重度の入所者が多く、地域移行はそれほど多くはないが、近年になり取り組み始めた。

建物は 1996 年に事件当時の物になっており、当時は工夫をこらした近代的な入所施設だった。約 20 人規模のホームが 8 か所

集まった施設であり、生活の場所を小規模化しようとする意図があったと思われる。

職員数も他と比較して決して少ないとは言えない。しかし、国基準の職員数がはたして

これでよいのか、というそもそもの問題は別である。また、他のホームの職員との連携等がどこまではかれていたかは不明だ

し、報告書からはどのような支援内容だったかは読み取ることができない。一部に施設に対する批判もみられるが、真偽は不明。

犯人が当園で働いたことが障害者に対する差別思想を持つ直接のきっかけになったか否かは、まだまだ検証を要する。

5. 国の対応

国の「相模原市の障害者支援施設にお

ける事件の検証及び再発防止策検討チーム」

は 11 回開催され、2016 年 12 月 8 日に「報

告書～再発防止策の提言」が発表された。

その会議では殆どが措置入院、その解除の問題に向けながら、報告書でも措置入院後の精神障害者に対してどうするかが大半を占めている。

退院後の支援計画も作成し、情報共有するという内容だが、実質的には精神障害者を危険人物とみなしその管理を強化するに過ぎないとの批判も大きい。

また、退院という「出口」論ばかりではなく、そもそもの入院という「入口」について医療だけでなく、司法、行政ともに責任をもって取り組む体制が必要であるとの意見もある。(※7)

かつて池田小学校事件でも同様に精神障害者の入院が問題とされ、結果医療観察法が成立した。しかし、犯人は責任能力があ

り措置入院の対象ではないとされ、結果死刑が執行された。

これと同じ経過を今回も繰り返すのではないかと指摘する声も多い。すなわち、植松には人格障害ではあるが責任能力があり、そもそも措置入院の対象者ではないとして極刑を科し、あわせて精神障害者・措置入院についての法律自体は強化するというものであり、どうやらこの予想は正しいそうである。

知的障害者に係る者でも精神障害者についての知識やこうした経緯についてはあまり知らない人も多い(私も含めて)。この事件を契機として、精神障害者の問題についてももっと我々も考えるべきであると痛感する。

(※7) 現代思想 2016 年 110 月号「相模原障害者殺傷事件」P169

精神医療と司法・警察の「入口」と「出口」という問題系(高木俊介)

6. 建て替え問題

施設の建て替えについては黒岩知事が早々に全面建て替えを表明したが、障害関係団体からの激しい反対を受け、検討委員会で再度議論することとなった。その報告書では、小規模分散が結論として出された

が、家族会や職員は元の場所に全員が戻れる施設の建設を求めているといわれる(※8・※9)。

大規模施設へ反対する団体の中には自分たちが運営するグループホーム等への受け入れを表明しているところもある。

報告書の結論は小規模・分散化ではあるが、家族やかながわ共同会より強く出された元の施設へ戻れるようにとの意見にも配慮したものとなっており、現実的にどうするかが曖昧な点もある。

報告書ではまず、「131 人すべての利用者が安心して安全に生活できる入所施設の居室数を確保することが前提」と言い、「これまで津久井やまゆり園利用者が生活していた千木良地域における施設整備のほか、利用者の仮居住先となっている芹が谷地域における施設整備に加え、県所轄域における施設整備を検討すべき」としている。そして、グループホーム等への地域移行も促進し、意思決定支援を進めながら本人の意思確認をするとされている。

元の施設へ戻してほしいと言っていた家族会などは「私たちを抜きに私たちのことは決めないで」という障害者権利条約の理念を逆手にとって主張していたのであるが、どういう生活の場所を選択するかという具体的場面では更に意見の対立が予想されるし、また遠い道のりであるのかもしれない。

私は、家族会や法人の人たちが元の生活に戻りたいという意見も大切であると思う。家族にしてみればやっとたどり着いた施設

であり、地域の人たちとも交流もあった。大規模施設といっても各ホームは 20 人程度の規模であり、高齢化の問題も心配で診療所機能がついている施設は安心だ、というであろう。

私は家族というより、むしろ法人、施設側の考えがどうなのかが大きいと思う。職員にとっても現実的には家から遠く離れた仮宿舎となり不便も大きいという問題もあるだろうし、「頑張って元に戻ろう」と入所者の人たちと励ましてきたのも事実だろう。

しかし、同時に自分たちの元同僚が犯した事件である。何が事件を引き起こしたのかを考える際に、施設の規模を含めた在り様、その中での支援の在り様を問わざるを得ないのではないだろうか。そう考えれば、報告書で書かれていることを単に理想論（という部分も確かにあるが）と片付けて良いわけではない。

少なくともより小規模分散化したものになることは当然であると思う。また、報告書では参考にすべき施設やグループホームとしていくつかが挙げられている。どこでもできるわけではないのは事実であり、体制整備には予算も必要であり、より専門性をもった職員体制も必要である。そうした

ことを国、行政も真剣に考えてもらいたい と思う。

(※8) 福祉新聞 2017 年 5 月 31 日

http://www.huffingtonpost.jp/fukushi-shimbun/tsukui-yamayuri-en_b_16891458.html

(※9) かながわ共同会の「見解」

http://www.kyoudoukai.jp/201707view_on_the_outline.pdf#search=%27%E6%B4%A5%E4%B9%85%E4%BA%95%E3%82%84%E3%81%BE%E3%82%86%E3%82%8A%E5%9C%92+%E5%86%8D%E7%94%9F+%E3%81%8B%E3%81%AA%E3%81%8C%E3%82%8F%E5%85%B1%E5%90%8C%E4%BC%9A%27

(なお、当初はホームページに「元の施設へ戻りたい」旨の入所者の意見などが多数掲載されており、「私たちを抜きにして私たちのことを決めないで」という文も見られたが、現在は削除されている。)

7. 福祉現場

相模原事件を調べている中で、週刊現代の次の記事(※8「なぜ、相模原障害者殺人事件の犯人は一部の若者に支持されたのか?」)に出会った。

この事件をとりあげた「報道番組について、19歳の大学生が東京新聞の『発言』欄への投稿で強い不満を述べていた。」というものである。

「番組の多くが「容疑者のひずみや異常さ」ばかりを言い立てて、「魔女狩りのよう

だと感じます」という前置きの後、「私たち

若い世代は、勉強しても借金だらけ、就職できるかの不安、運よく就職しても働けど働けど親世代には追いつけず、生活はずっと不安定、結婚、子供なんてもってのほか、未来に希望はひとつもない。そんな状態なのに、どうして誰も助けてくれないのか、怒りが間違った方向にむく。「そうした根本問題を抜きにしては、「番組で取り上げる意味がないと思います」と結ばれていた。」と記されている。

だからといって、犯人のようにみんながなるわけでない。しかし、犯人も父親のように教師にはなれず、今の生活に大きな不満と絶望を抱いていたのは事実のようだ。こうした観点も大きな意味での背景として考える必要はあるのかもしれない。

また、この記事の中で「崩壊する介護現場（中村淳彦著）」が紹介されている。「介護の世界には夢や希望はなにもなく、将来性もあるとは思えない。あるのは『需要』だけである」と断じて、センセーショナルまでの筆致でその現況を暴いている。頻出する事故、入居者への暴行事件、2010年2月に春日部市の特別養護老人ホームで起き

た、入居老人3名の連続虐待死事件は、当時29歳の犯人が入職直後の4日間に「イライラしてやった」という異常さ」とある。

私はこの本はまだ読んでいないし、福祉現場（この本では介護現場）がそこまで悲惨な状況だとは思えない。少なくとも私たち法人では違うと言いたい。しかし、同時にそうなりえる危険性を今の制度は内在しているのは事実だとも思う。ここに書かれているように、これだけの大量虐殺事件は初めてであるが、施設職員が入所者を殺した事件は過去にもあったのである。

(※8) <http://gendai.ismedia.jp/articles/-/50230>

また、冒頭にも触れたが、この事件を受けて犯人を称賛する書き込み、ヘイトスピーチも見られる。その一つにNHKのバリバラの特集がある（バリバラは障害当事者が出演して様々な障害のテーマで語りあう番組で、明らかにこれまでの障害問題報道番組とは違う画期的な番組であると思う）。

同番組のホームページの記載(※9)によると、「500通を超える意見が寄せられ、その中には容疑者の意見に賛同するものもあ

った。30代の男性からのメールには『知的障害の人たちと暮らすために周囲が支払う労力や金銭を考えると容疑者の考えを理解できてします』と書かれていた。」この番組の画期的なことは、このメールを送った男性に番組レギュラー（玉木幸則氏）が会いに行って話をするということであるが、以下のようなやり取りが書かれている。

「これまで障害者につきあった経験がないという男性、「知的障害者はお金稼げてな

い、社会に貢献できていない、周りに負担ばかりかけていると考えた時に、今回の容疑者の考えには賛成できる」と語った。生産能力によって人間の価値が決まるという考え方は決して一部の特別の人たちの考え方ではない。」

その後玉木氏とのやりとりが続いた後に、「男性は『いま必死に生きているつもりで、

実際必死に生きているんですよ。（社会に）余裕がないのがいけないんですよ』と言い、『根本じゃなくて、目に見える現象を叩こうしていたのかな』と玉木氏は応じている。

これは先に述べたナチスドイツのポスターと同じではないか。こうした意識が特別の人だけにあるのではないことを恐ろしいと思うが、同時に忘れてはいけないと思う。

(※ 9) <http://www6.nhk.or.jp/baribara/lineup/single.html?i=343>

8. まとめにかえて

この事件を受けて、障害者が地域から隔離され、障害者との交流がないことが障害者差別、優性思想を生むとの論調が多く言われた。このこと自身は間違いではなく、障害者を取り巻く状況やその姿を社会に発信する責任が我々にもある。

しかし、この事件自体は障害者を全く知らなかった犯人が起こしたのではなく、むしろ障害者と日常的に接していた元職員によるものである。したがって、彼が何故こうした犯行を行ったかは別の観点での検証が必要となる。

彼個人の資質や生育歴、現在置かれていた状況の問題と、施設の状況（入所施設と

いうもの自体の問題と当園に存在する問題）、それぞれが問われなければならない。

施設側の問題を考えるときに、規模の問題も当然ながら、その中で行われている支援の内容、職員の連携・育成の問題など、課題は多岐に渡る。そして、それは入所施設に限ったことではない。

地域生活の中心であるグループホームにしても、世話人一人が関わる時間帯がむしろ入所施設よりも多い為、やり方次第ではより閉鎖的であり、より密室性を持つおそれが常に存在する。

職員がいきいきと働ける環境を如何に作るのか、職員の状況を確実に把握し、適切

な対応をすぐに行うことができるのか、自分の職場、自分の対応を振り返る必要が我々全員にあると思う。何よりも犯人が「犯行声明」（衆議院議長宛への手紙）の中で述べた「保護者の疲れきった表情、施設で働（※5）ナチスドイツのポスター

いている職員の生気の欠けた瞳」のような事実はないと、胸を張って言い続けることができるような取り組みを続けていきたいと思う。



けいさいないよう
…掲載内容…

- | | | |
|-----|---|--------------|
| P11 | — | SSE（就職者）旅行 |
| P13 | — | 伝 お楽しみ会 |
| P15 | — | クリスマス会 |
| P16 | — | 忘年会 |
| P18 | — | もちつき |
| P20 | — | 就労冬の旅行 |
| P21 | — | 北部就ポツの支援状況 |
| P23 | — | そうそうの杜の取り組み |
| P24 | — | あうんの杜 地鎮祭の報告 |



ここからは、前々回からスタートしました行事シリーズです。

SSE 旅行、伝 おたのしみ会就労関係クリスマス会、恒例の全体行事(忘年会)、年末餅つき、就労関係冬の旅行の報告です。

・SSE 旅行

・日程： H29 年 12 月 9 日（土）～10 日（日）の 1 泊 2 日

・行先： 長崎県（ハウステンボス）参加人数：就職者 22 名 スタッフ 5 名 計 27 名

今年も、就職者のみなさんが楽しみにしている、SSE 旅行に行ってまいりました。

SSE とは、S（しゅう） S（しょく） E（ええな） という意味で、毎月だいたい金曜日の仕事が終わった後に集まってお食事会や、ボウリング、日頃の職場の話など、定期的に“SSE 会”として活動しています。

そんな SSE 会の中でも、作業所や、学校から会社へ就職し、給料も増えたのだから年に 1 回くらいは贅沢な旅行に行って、ぱーっと羽を伸ばそう！『就職したらええことあるな』という事が一番実感できるのがこの SSE 旅行です。これまでには、東京、沖縄、北海道、海外では韓国など、近距離ではなく少し遠出をして観光名所を巡ったり、日常では味わえない経験をしてきました。

今回は SSE 会での話し合いの結果？いや、SSE 会委員長の独断と偏見で、長崎のハウステンボスに決まりました。旅行の中身は文章で簡単に紹介して、写真も載せているので、イメージしながら見てもらえればと思います。

・1 日目

SSE 旅行の朝は早く、京橋駅に 7 時集合でした。今回は遅刻した人は 1 人。10 分程

の遅刻でしたがそれは想定内。電車で間に合いました。京橋駅→新大阪駅→新幹線で博多駅と移動し、博多駅でお昼ご飯。名物のとんこつラーメンを食べました。そして博多駅→長崎ハウステンボス前に到着。ハウステンボス内では色々なエリアがあり、チームに分かれて園内を周りました。夕食はバイキング。夕食後はイルミネーションを見て楽しみました。

・2 日目

前日に周れなかったアトラクションで遊ぶのも程々に、メインのお土産タイムがほとんどで、カステラやチーズケーキなどを会社の人たちや家族へのお土産としていっぱい買っていました。お昼ご飯は、長崎ちゃんぽんや佐世保バーガーなど長崎名物を食べる人もいました。帰りの新幹線では疲れて寝ている人、元気におしゃべりしている人、たばこばかり吸いに行く人と色々。乗り換えの博多駅でもお土産タイムがありみんなご満悦。新幹線のキップを落としたり、一人で 2 枚も持っていたりして改札でとても困ったことは内緒です。天候が悪かったことが残念でしたが、全員無事に旅行を楽しむことができました。

旅行に行きたい人は就職を目指しましょう！ しゅうしょくええな！ （市川）





・伝 お楽しみ会

H29 年 12 月 16 日（土）

（子ども 17 名、保護者 7 名、スタッフ 6 名、ボランティア 2 名 ： 計 32 名）

今年度も恒例のお楽しみ会をしました。フロアの飾り付けは、数週間前から子どもたちと一緒に行いました。「次はこっちに飾ろう」「どっちの輪繋ぎが長く出来るか競争しよう」と、まだ準備の段階でも子どもたちは楽しくて仕方がない様子でした。

ゴルフゲームではボールがカップに入ったら高得点が入るだけではなく、カップの周りにも何枚か色の異なるマットを敷いてその色ごとに点数を分けました。

しかし、カップから近いマットは 0 点、遠いマットは 300 点など、カップを狙って高得点をとるのか、それともカップを避けて確実に得点をとるのか、みんな色々と作戦を考えて楽しんでいました。また子どもたちだけではなく、保護者の方にも参加してもらい、みなさんとても真剣で良い表情でした。



景品釣りでは、つり竿の先に磁石をつけ、番号が書かれた磁石をマットの上に並べて、子どもたちが好きな番号を選んで釣れるようにしました。どの番号にどんな景品が当たるのか分からないようになっているので、景品は釣ってからの楽しみになっていました。

なかなか磁石がつかなかったり、引き上げる力が強すぎて、途中で磁石が落ちてしまったりと、みんな苦戦していましたが、頑張って自分で選んだ番号の景品をもらって喜んでいました。

○×クイズ大会では 1 つの豪華景品をかけて行いました。「さっきも○だったしなあ…」とか、「これはひっかけ問題かなあ？」とみんな色々と予測をしていました。

問題が全て終わっても数名残っていたので最後はジャンケンをして決めました。ジャンケンが出来ない子もいるので、ゲー、チョキ、パー



のカードを作って、「せーの」でカードを出して周りの人たちも、見てわかるように工夫しました。



食後のチョコレートファウンテンは、みんなの一番の楽しみで、口の周りにもたくさんチョコレートをつけて食べることに必死でした。

初めてチョコレートファウンテンをする子は、使い方がわからず、そのまま手で触ろうとしたり、一度口に入れてしまった串でフルーツを取ろうとしたりとハプニングはありましたが、みんな順番を守って待つことも出来ていました。

最後は段ボールあそびです。特にテーマを設けず、子どもたちが思いつくままに段ボールで色々な作品を作ってもらいました。

みんなで協力して長いトンネルを作る子もいれば、黙々とお家や武器を作る子と様々です。でも気付けば、それぞれが作り上げたものを使って、それでみんなで一緒に遊んでいました。

片付けの時間になると、役割を決めていなくても、段ボールを崩す人、ビニールテープやガムテープを集める人というようにすぐに周りの状況を見て自分たちで動いていました。



こうして、普段は関わることもない他曜日利用の子どもたち同士の関わりだけではなく、保護者同士の横のつながりも出来たかなあと感じました。スタッフもバタバタしている中、みんなで助け合い、楽しむことが出来た一日でした。みなさん、ご協力本当にありがとうございました。

お楽しみ会は、今年も12月の第3土曜日に行いますのでゲームや昼食メニューなどでリクエストがあれば、どんどんご意見ご感想を、お聞かせて下さい。よろしくお願いします！

(井上)

・クリスマス会(つむぎ館にて)

・平成 29 年 12 月 23 日 (土)

毎年各事業所でクリスマス会を行っていましたが、今回は創奏、座座、つむぎ館、今福と合同でクリスマス会を開催しました。

各事業所でどんな鍋を作るのか、買い出しから始まり調理等、普段料理をしない人達も買い出しチームや調理チームに分かれてみんなで協力しながら作りました。

すべての鍋がすごくおいしそうでした！午後からはそうそうの杜での部活紹介を行いました。

テニス部、マラソン部、フットサル部、一五一会と部員の方達に発表してもらい、

その後部活体験で蒲生グラウンドに出て実際行っている部活動の体験をしてもらいました。

大勢の方達に体験してもらい、部員のみんなも張り切っていました。

体験後はクリスマス会メインのクリスマスケーキ作りです。

フルーツで盛り付けたりサンタのお菓子を乗せたりとみなさん真剣に作られており、たくさんの手作りケーキが出来ました！

どこのケーキがおいしそうかな (国本)



・そうそうの杜 忘年会

- ・日程：平成 29 年 12 月 29 日（金）
- ・場所：城東老人憩いの家

昨年は、年末に利用者・スタッフを合わせると約 200 名が集まり忘年会を行いました。

利用者とともに準備・設営から一緒に行い作りしました。



お昼からで、利用者代表の方が乾杯！！の挨拶でスタートしました。昼食を皆さんと一緒に食べました。メニューは、地域の商店街の総菜屋のお弁当・kawasemi の豚汁を準備しました。食事も終わり、落ち着いたところでそうそうの杜の 1 年間の思い出を振り返るということで、各事業所の様子・行事・旅行など様々な様子をスライドショーで流しました。

そうそうの杜の一五一会部による演奏を行い、日ごろの練習の成果を発揮し、周りも巻き込んで忘年会を大いに盛り上げてくれました。

毎年、恒例の事業所対抗のゲーム大会があり、2 競技行いました。どれも真剣勝負で行い、豪華賞品も用意しました。



1 競技目は、アルミ缶積み競争！！どれだけ上に詰めるかと単純な競技ではあるのですが、2 人 1 組で行い、上に行くほど慎重になり緊張感が増しました！！崩れたときには中々の迫力でした。



2 競技目は、的あて！！ただの的あてではなく、ボールとなるのが水風船！！そして、的の前には人が立ち（雨具装着）そのボールを防ぐという役割で、当たった合計点数で競いました。水風船が割れたり、割れなかったりありましたが競技者は思い思いに的？！に向かって思いっきり投げていました。

ゲームも終わり、ここからはガラッと空気も変わり表彰式に移りました。表彰は、就職した人・MVP 賞・理事長賞と順番に表彰を行い、MVP 賞は事業所ごとに（一番頑張った・輝いていた等）様々な理由がありますが各 1 名ずつをスタッフの方で選出させてもらい、表彰をしました。一人一人の名前が発表される前は、独特の緊張感でとてもいい

雰囲気でした。その中でも、名誉ある賞として理事長賞があり、そうそうの杜全体で 1 名のみが選出されます。MVP 賞と理事長賞の方には、豪華賞品と表彰状が授与されました。この賞をモチベーションに 1 年間



頑張っている人がおられると耳にすることも……。表彰式では、様々な表情を見ることが出来ました。最後に荒川理事長から締めの言葉を頂き、昨年の忘年会は終わりました。今年も 1 年皆さんと一緒にそうそうの杜を盛り上げていけたらと思っています。





MVP 賞（各事業所で一番光った人）
理事長賞（利用者全体の中で一番光った人）
表彰状の授与式

・もちつき大会

平成 29 年 12 月 30 日毎年恒例の餅つき大会を行いました。

今回は、南しぎの商店街の中で行い多くの方が参加され今までになく盛況な餅つき大会でした。商店街で買い物をしている人達も興味を示され多くの方達が見学、参加をされました。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

餅つきの基本的な流れはもち米を前日から水に浸す作業から始めます。臼と杵も水に浸しておき木に水を浸み込ませ木が割れない様にしておきます。これで前日の準備は完了です。当日、前日の晩に浸水させておいた餅米は水をしっかり吸って膨れた状態になっています。この状態になればざる上げして水気を切って蒸し始めます。蒸す時間は 1 時間弱なので、実際に餅つきをするタイミングに合わせて、時間配分をしてから蒸し始めます。一度濡らしてかたしぼりにした蒸し布を蒸し器に広げ、水気を切った餅米を広げます。**蒸気が通りやすいように、中央を少し開けてドーナツ状にするのがポイント**で、蒸し布をかぶせたら蒸す準備の完了です。しっかり沸騰した湯にかけ、**強火で 45 分から 1 時間ほど蒸します**。餅つきは熱々に蒸された餅米を熱いうちにつくという、時間との勝負でもあるので、少しでも餅米が冷めないよう臼と杵も温めておく必要があります。餅米を蒸し始める少し前くらいから、前日に入れておいた水をすべて捨てて、替わりに熱湯を入れ、臼と杵を温めておきます。餅米は 45 分から 1 時間ほど蒸した後、実際に食べてみて蒸し上がりを確認します。蒸し上がっていれば OK。臼に熱いうちに移します。臼に入れた餅米ははじめはつかずに、**体重をかけて杵でぐいぐいと潰して**いきます。臼のまわ

りを回りながら均一に潰します。餅米全体を丁寧に潰すことができれば、ここからつく作業になります。杵を使って餅をつくのは力を入れすぎず、振り上げた杵の重さを利用して、落とすようにつのがポイントです。途中合いの手を入れてもらいながらつくのですが、合いの手はついた餅を『外から中へ』と折り込むように動かします。合いの手を入れながら外側の餅を中央に集めつつ餅をついて、もち米の粒感がなくなり、全体がなめらかなになれば完成です！

餅つきは皆で大きな声をだし「よいしょ！よいしょ！」と言いながらついていきました。力強く杵を振り上げ「ドーン、ドーン」と元気よくつく方もいれば、やさしく「ペチャ、ペチャ」とつく方もいました。そして、うまく仕上げるには打ち子と合いの手のかけあいが非常に重要でしたが、息の合ったペアもあればまったく息の合わないペアもありました。最後は皆で協力をして 30 キロの餅米を打ち終えました。

そして、出来上がった餅をひとつずつ丸める作業を行いました。まずは木箱の中に餅粉をひき、アツアツの餅を中にいれ満面なく餅粉をつけました。そして、手のひらサイズに餅を切り手でやさしくまるめていきました。初めて丸められた方は試行錯誤

しながら懸命に丸めていました。最初は中々うまく丸めることができませんでしたが、皆さんが上達して見事立派なまん丸としたお餅を完成することができました。うまく丸めたお餅はぜんざいに入れたり正月

用の餅にして皆さんにお配りさせて頂きました。

(中世古)



・創奏・座座・つむぎ館 冬の合同一泊旅行

日程：平成 30 年 2 月 15 日～16 日

参加者：利用者 21 名 スタッフ 7 名

場所：香川県 小豆島



毎年恒例の冬の一泊旅行ですが、今回は香川県の小豆島へ行ってきました！

小豆島に行く為、バスで約 2 時間半かけて姫路港へ。姫路港からフェリーで 2 時間で到着。

バスの中ではバスレク担当さんがレクリエーションをしてみんなで盛り上がりしました。フェリーの中でお昼ご飯を食べ、みなさん景色を見ながら各々楽しんでいました。

小豆島での一日目の天候は曇りで時々小雨が降る程度でした。

寒霞溪ロープウェイを乗り展望台へ。少し曇ってはいましたが小豆島を見渡せる絶景でした。その後は二十四の瞳映画村へ、映画「八日目の蝉」の撮影舞台となっており映画の世界に入った雰囲気味わえました。ここではお土産屋さんが数多くあり 1 日目でしたが皆さんいっぱい買われていました。今回の宿泊するホテルは小豆島国際ホテルでこのホテルからは観光地であるエンジェ

ルロードが目の前でした。エンジェルロードとは潮の満ち引きで道が消えたり現れたりする場所でこの日は運良く渡ることが出来ました！

夜は宴会レク担当さんが皆さんを盛り上げる為色々なゲームで楽しみました。食事もどれもおいしくお腹いっぱいになりました。ホテルの大浴場は露天風呂もあり日頃の疲れをとって一日目は終了となりました。

小豆島二日目は天候に恵まれ良い天気になりました。ホテルを出発しオリーブ公園へ。ここでは実写版「魔女の宅急便」の舞台であり誰でも魔女体験ができるよう無料でホウキを貸し出されており、沢山の観光客が魔女になっていました。お昼ご飯にはベイリゾートホテルにて和牛ひしお御膳を頂きました。皆さんペロリと完食されていました。あっという間の小豆島の旅行でした！

(国本)



◎事業紹介

大阪市障がい者就業・生活支援センター（北部地域センター）の活動状況

1. どこにあるの？

市内7ヶ所に、「地域就業・生活支援センター」の窓口があります。北部地域障がい者就業・生活支援センターは、そう

その杜が担当しており、3名の支援担当者（ワーカー）がいます。

2. 何をしているの？

地域センターは、関係機関との強いネットワークを持っているので、利用者に適した支援ステージと一緒に考えて行き、最終的に「はたらくちから＝しごとをこなすちから」を身に着けるために最良の方法をアドバイスしていくところです。

- ①心と体の健康を維持する力
- ②日常生活を送る(管理)ための力
- ③社会生活に適応する力
- ④職業生活を続けていく力
- ⑤仕事をこなす力

まずは、①～④の支援ステージの「どこに、あなたはいらっしゃるか」を一緒に考

えていき、手順をふんで少しずつ前に進むお手伝いをしています。最終目標の⑤を目指しています。

「これから会社等で働きたいと思っているとき」「働き続けることで悩んでいるとき」「働きたいけどうまく行かず、どうしていいかわからないとき」に、就職までの道のりを一緒に考えたり、想いを周囲の人に伝えたり、訓練する場所・勉強出来る場所・色々な手続きをしてくれる場所に繋いだりします。相談者にとって、これから役立ちそうな応援団を紹介し、それをどんどん増やしていく手伝いをしています。

3. センターの現状

・平成29年度（4月～2月）支援対象登録者は、490名となっています。

障害種別・北部地域センター登録者数（表1） ＊平成29年度2月末日現在

	身体障害 (うち重度)	知的障害 (うち重度)	精神障害	その他 (発達障害)	合計
在 職 中	23(4)	149(27)	84	2(1)	258
求 職 中	20(8)	65(6)	127	6(6)	218
そ の 他	1(1)	4(0)	9	0(0)	14
合 計	44(13)	218(33)	220	8(7)	490

・平成29年度（4月～2月）の新規登録者数は96名で、精神障害者は三障害の中でもっとも多い44名となっています。（表2）

・平成27年度より、新規登録者数が知的障害者数より精神障害者数が上回っています。

(表 2)

- ・平成 29 年度は、精神障害者登録者数が知的障害者登録者数を上回っています。(表 2)

新規相談件数 (表 2) *平成29年度2月末日現在

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
身体障害者	5	7	7	15
知的障害者	66	23	29	34
精神障害者	36	32	51	44
その他	0	1	1	3
合計	107	63	88	96

- ・平成 29 年度 (4 月～2 月) の就職者人数は 46 名です。(表 3)

29年度就職者数 (表 3) *平成29年度2月末日現在

身体障害 (うち重度)	知的障害 (うち重度)	精神障害	その他 (発達障害)	合計
4(0)	21(2)	20	1	46

- ・平成 29 年度 (4 月～2 月) の新規求職者人数は 77 名となります。(表 4)

29 年度求職者数 (表 4)

	身体障害 (うち重度)	知的障害 (うち重度)	精神障害	その他 (発達障害)	合計
安定所求職登録中	8(1)	19(0)	28	6(6)	61
準備訓練/実習中	0(0)	0(0)	0	0(0)	0
基礎訓練中	0(0)	0(0)	2	0(0)	2
その他	2(0)	4(0)	7	1(1)	14
合計	10(1)	23(0)	37	7(7)	77

次ページのビラは地鎮祭で参列者・地域の商店街に配布した資料です。

地鎮祭を行いました



2018年3月6日、しぎの あ・うんの杜建設予定地において、地鎮祭を執り行いました。

地鎮祭には、そうそうの杜職員・利用者をはじめ、工事関係者、近隣の皆様など約30名に出席いただき工事の安全・無事を祈願いたしました。

あ・うんの杜建設着工は、3月下旬。竣工および移転は本年8月中旬頃の予定で、1階のビュッフェレストラン『杜の Shokudo』も同じく8月中旬にオープンを予定しております。



しぎの あ・うんの杜

- 3月下旬 建設着工、8月中旬 竣工予定
- 1階 レストラン（ビュッフェ形式）
- 2階 社会福祉法人そうそうの杜 法人本部
- 3階 障害児デイサービス
（児童発達支援・放課後デイ）

杜のおかしやさん

既に営業中 西側のシャッターの中を整備し
『杜のくまさん』としてレンタルスペースに利用

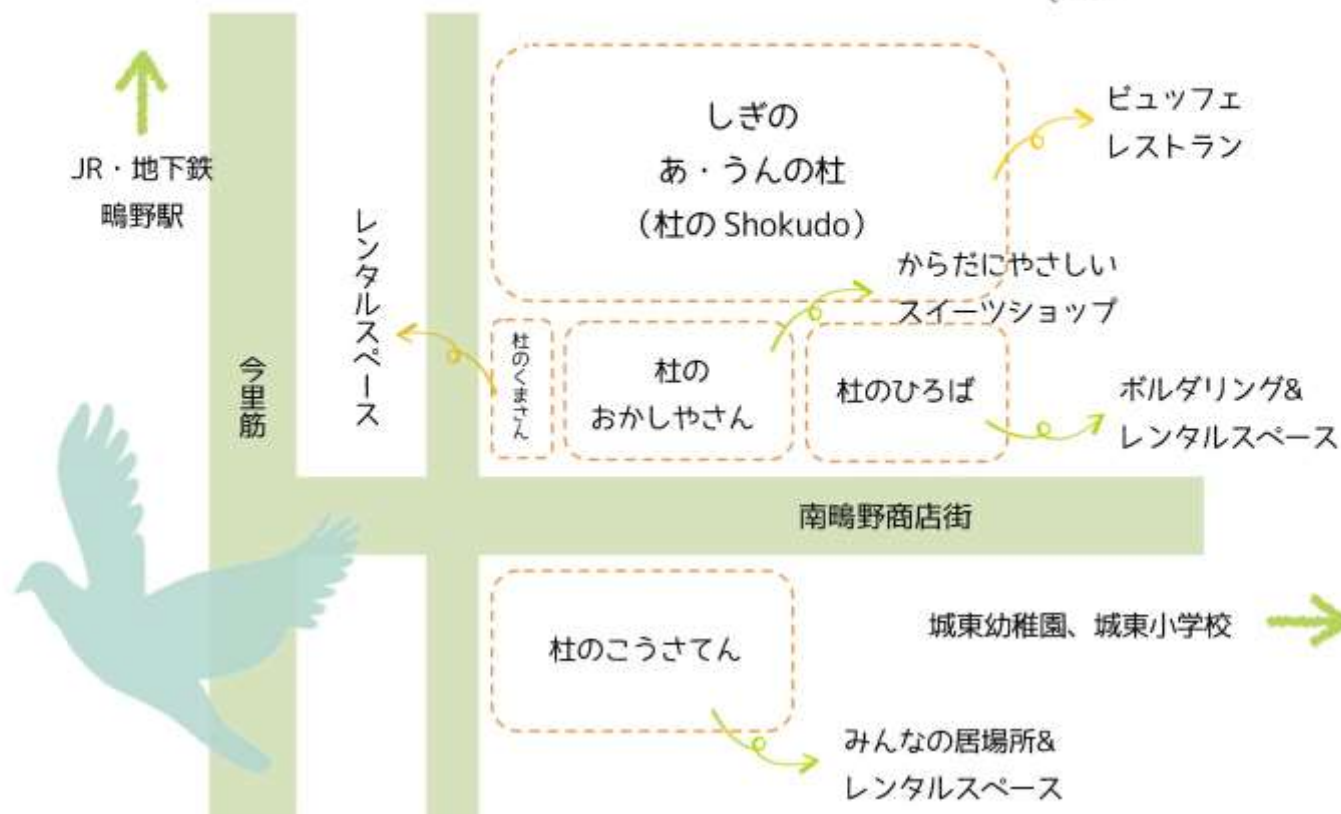
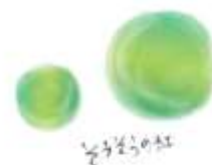
杜のひろば

ボルダリングを設置し、レンタルスペースとしても利用する

杜のこうさてん（通称 こうさてん）一かものじゃないよ。しぎのだよ。一

4月から稼働開始予定

- ・誰でもが気軽によってこれる場を地域に開放する
- ・高齢者・子育て支援・不登校の生徒・引きこもりの人・その他の地域の人が、時間を過ごせ（居場所）るところを目指します



【賛助会にご協力いただき ありがとうございます】

社会福祉法人きょうきょうの杜では、事業活動へのご支援をいただくための賛助会員制度を設けています。当法人の理念や事業、目的に賛同される方は、賛助会費を納入されることにより、賛助会員となります。賛助会員の皆様には機関紙「想創奏」をお送りします。

賛助会費を御振込いただく場合は、下記の郵便振替口座に振込みをお願いいたします。

ゆうちょ銀行

口座番号：00940-5-185986

振込先（加入名）：きょうきょうの杜

一口：2,000円

賛助会費・一般寄付（平成30年1月1日～平成30年2月28日にご支援頂いた方）

倉川 晴子	水本 貴子	嶋本 八千代	飯田 靖子	三宅 美幸
大塚 満	井口 友子	山田 勇太郎	野間 満典	佐藤 友子
荒川 輝男	三機工業(株)	(株)田中止鉄工所		

（順不同・敬称略）

その他、地域の方々にアルミ缶・牛乳パック等、様々な物品のご寄付を頂いておりますことを、心より感謝申し上げます。いつも本当にありがとうございます！！

編集後記

年度末は毎年バタバタします。そのバタバタが一段落したら新年度でまたバタバタします。気付いたらいつの間にか桜が咲いていて、いつの間にやら散り始めているというのがこの時期の常ですね。

先日、東日本大震災から7年が経ちました。TVでニュース等を見て、「もう7年経ったんだな」と感じました。この年月の流れの感じ方は人それぞれだと思いますが、私としては「もう7年」でした。充実していて目まぐるしくて早く感じているのか、何もない日々が続いていて早く感じているのかは分かりませんが、いずれにしても幸せな事だな、と感じます。

（は）

社会福祉法人そうそうの杜

大阪市城東区鳴野東3丁目18-5

Tel : 06-6965-7171 Fax : 06-6167-2622

地域生活支援センターあ・うん 相談支援事業

・城東区鳴野東3-18-5 Tel/06-6965-7171 Fax/06-6167-2622

とことこっと 居宅介護・重度訪問介護・同行援護・移動支援・訪問介護

・城東区中央1-6-28 Tel/06-6167-7530 Fax/06-6955-8826

庵 生活介護

・城東区中央1-6-23 Tel/06-6935-0909

げんげん 生活介護

・城東区蒲生3-11-10-1F Tel/06-6935-1727

伝 児童発達支援・放課後等デイサービス

・城東区蒲生3-11-10-2F Tel/06-6930-6540

創奏 就労継続支援B型

・城東区中央1-7-27 Tel/06-6935-3794

Kawasemi 杜のおかしやさん 就労継続支援A型

・城東区中央1-6-29 Tel/06-6935-1111 Fax/06-6935-1911

座座 就労継続支援B型

・城東区鳴野西5-13-6 Tel/06-4258-6013

つむぎ館 就労継続支援B型

・城東区中央2-10-15 Tel/06-6933-7269

今福事業所 就労移行支援・就労継続支援B型

・城東区今福南1-2-24 Tel/06-6933-0737

想縁綾 グループホーム

平成 30 年 3 月 31 日をもって事業廃止します。

添 短期入所

・城東区鳴野東3-2-5 Tel/06-6167-5395

